

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表: 令和 6年 2月 20日

事業所名 こぼんはうすくら 宮前教室

保護者等数(児童数) 24人(26) 回収数 22通 割合 91.67%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	17	1		4	・お部屋が2つあり、十分なスペースになっていると思う。 ・もう少し広くても良いと思う。 ・活動している所を見る機会がないので、分からない。 ・出来ていると思う。	
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	19			3	・教室に行く機会がないので、分からない。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	14	1		7	・2回しか行ったことがないので、分からない。 ・生活空間は分かりやすいと思うがバリアフリーかどうかは分からない。	ロッカー配置やトイレへの導線など、分かりやすくする。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	19			2	・遊ぶスペースと活動スペースが分かれているので、切り替えしやすいと思う。	毎日の清掃・消毒作業は欠かさず行っている。
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	21				・アセスメントで聞き取りをしてくれているので、出来ていると思う。	面談などで得たご要望を支援者会議にて周知共有、理解を得られたところで、計画の作成を行っている。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	20			2		特に地域支援はまだまだ弱く、どのようにかわるべきかを会議にて検討していく。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	21	1				
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	21	1			・色々プログラムが考えられている。 ・シーズンごとにイベントが行われている。	
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	6	3	4	9	・交流があるか分からない。	
保護者 への 説明等	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	20	1		1		
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	20			2		面談などでは、丁寧な支援計画の説明を心がけている
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	11	4	3	4		今後親御さん向けに講座などを開いていくことを検討しています。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	20	1	1		・送迎の際、その日の出来事等伝えてくれる。 ・とても感謝している。	
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	17	4		1	・アセスメントが年2回あり、出来ていると思う。	半年の面談の他、定期的な話し合いの場を設けていく事とした。
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	8	4	5	5	・イベント等が行われている。 ・一度保護者会はあったが、保護者同士の連携については、会う回数が少なく難しい。 ・参加したことがない。	上記の通り、定期的な集まりの会を検討していく事とした。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	19	2		1		
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	19	3			・子供のやりたい気持ちをくみ取り、配慮して下さっている。	
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	19	3			・毎回活動の様子を伝えて下さっている。	HPでは伝えていないが、ブログ他SNS媒体を利用している
19 個人情報の取扱いに十分注意されているか	20			2			
非常時 等の 対応	20 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	15	4		3	・シーズンによってプリントで配布されている。 ・活用している。 ・訓練は実施しているのか、マニュアルがあるか 分からない。	まだまだ読数不足が否めないため、今後より一層の周知を行っていく事となった。
	21 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	16	1		5		
満足 度	22 子どもは通所を楽しみにしているか	20	2			・毎回喜んでいる。 ・楽しみに通所している。	今後もこの評価を崩さないよう、支援していきます。
	23 事業所の支援に満足しているか	21	1			・とても満足している。	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 6年 2月 20日

事業所名 こぼんはうすくら 宮前教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	2		
	2 職員の配置数は適切であるか	2	6		・職員が辞めない環境にすべき。 ・一時的に足りない時や児童の特性によって足りない時がある。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	3	ロッカーの置き場所や、トイレへの導線などを工夫している。	・トイレの段差がありすぎる。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	1	毎朝の清掃・消毒を確実にしている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	3		
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	1	個別支援計画面談時はもとより、送迎時などの普段の会話からもお気落ちをくみ取れるように心がけている。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	3	SNSを使い保護者様に周知している	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		毎年の法定義務研修の他に、半年以内に8時間以上の研修参加を義務づけている。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	2		
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	3	分かりやすい言葉でかかれた支援指示書を用いてパートの先生でもわかるようにしている	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	2		
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	1	定期的に支援者会議を行い、計画に沿ったものか確認を行っている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	4	2	毎月プログラム会議を開き立案を行っている	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		同上	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	2	児童ご自身、親御さんからの情報を主に、支援計画を策定している。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	3	毎朝ミーティングは必ず行っている。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	4		毎回とはなっていない。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	2	・日報、個別支援の記録を取っている	
関係機関や保護	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4	1	毎月支援者会議を開き、見直しの是非を話し合っている	
	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2	3		サービス会議自体があまり開催されていない
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	2	1	保護者様とは定期的に連絡を取り、必要に応じて療育センターなどに相談する事もある。	
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3	1		現在医療的ケア児はいない
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2	1		同上
25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		幼稚園の送迎時など、毎回情報共有を行っている。		

保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1	支援相談で療育センターの助言を受けている	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	3		今後、どのような方法があるか検討したい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	3		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		日々の送迎時に毎回状況報告をしあっている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	1		今後ペアトレの講座などを開いていきたいと思っている
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		ご契約時はなるべく簡潔な説明に留め、不明点は後日改めて丁寧な説明をするようにし、当日の煩雑さを回避している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		半年に1度、定期面談を行い、その際相談対応を行うと共に随時の相談も迅速に対応している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	2		昨年開催されたが、その後続いていない。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7		パートの先生や役職にない先生が、親御さんから相談を受けてた際、速やかに児発管に報告が行くように整備している。	
非常時等の対応	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		主にWEBを媒体として、頻繁に(ほぼ毎日)情報発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		文章だけでなく、写真、場合によっては動画などを用いている	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	3	夏祭り企画の際、近隣住民に案内チラシを配布している。	地域支援の方法は再検討するべき。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	1	避難訓練、感染症研修、を毎年規定回数実施している。	マニュアルはある場所が分かりづらいと思う。
非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		同上	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	1	半年に一度、保護者様から情報の更新を得ている	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5		保護者様より指示を頂いて、履行している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		運営5教室内で共有している	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		年に1度、虐待防止研修を行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	2		